佐渡総合高校　人権ニュース（教職員・生徒・保護者　配布）

【第５号】令和６年１月２４日　人権教育・同和教育・男女共同参画委員会発行

1. 人権講座「越佐にんげん学校」～狭山事件について～をリモート学習しました

教職員と保護者、少人数でしたが 10/26（木）午後会議室で学習しました。「悪いことをするのは被差別部落民だ」という差別意識により、でっちあげられた事件の真「犯人」について学習できました

2. 今年の人権講演会は「障害のある人たちへの理解」

11/9（木）県立佐渡特別支援学校の本間学教頭と本間幸子先生から第一体育館で講演を受けました。バスの中での様子が動画で示され、障害のある人の行動特性を理解し、その困り感を適切に支援する方法も具体的に学びました。これからのバリアフリー社会をより過ごしやすくできる方策を学びました。

【生徒感想】

・障害のある方と接する機会が少ないので、いざ関わるとなったとき、どのように接すればよいかが判りとても為になりました。いろんな人が同じ社会で生きているので、お互いを尊重し合えるように社会も変わっていって欲しいなと思いました（1 年）

・よくバスで特別支援学校の生徒を見ることが多いので、その人達との関わり方を今日習ったような関わり方をしていきたいです（1 年）

・自分も苦手な事が沢山あって、そのせいで沢山のミスをしてしまったけど、先生や友達が声を掛けてくれたりしたお陰で凄く助けられました。今度は自分が他の人の為に力を使えるようになりたいです（2 年）

・特性を知って関わるのと知らないで関わるのには大きな違いがあると思いました。ダウン症の子の母親の手紙の内容にとても共感でき、貴重な体験をすることができたなと思いました（2 年）

・障害のある人も一人の人間であることに変わりないし、人権を大切にして暮らしやすい世界を作ることが肝要だ。バリアフリー社会には生活し易い環境だけでなく、人を思いやる心が必要だと感じた（3 年）

3. 人権週間 12/4～12/10（世界人権デー）を中心に人権授業を行いました

【1 年次】部落差別問題…部落差別の歴史と、被差別部落の人達が果たしてきた役割

人権は一つひとつ学ぶ必要がある。「部落差別」は明治の解放令（1871）で廃止されてからも差別が続く。被差別部落の人達は皮革加工等の技術の他に人権運動を牽引してきた輝かしい役割がある

【2 年次】水平社宣言…1922年被差別部落の人達が人権宣言を行い困った人が声を挙げる世界を目指した

生徒感想「差別される側の気持ちがよくわかった。とても辛い事だと思う。みんな同じ人間として協力して生きていけたら良いと思う」「差別のない社会を築くには一人ひとりの意識が大切と思った」「困っている当事者が声をあげて差別されることなく助け合えるような世の中になれば良いと思った」

【3 年次】結婚差別…被差別部落の人には未だに結婚差別や就職差別をする人がいます、どうしますか？

2019 年 1 月の佐渡市「人権に関する意識調査報告書」では「あなたのお子さんの結婚しようとする相手が被差別部落出身者であった場合、その結婚についてどうのように思いますか」の問いに「認めない」とする回答が 2.5％もありました。実際の結婚差別を例に学びました。

困っている友達の側に立ち「困っている」と声を出せる佐渡総合高校に！